

HOME 社会 記事

社会

被災地、ストレスで感染症多発 AMDA県支部



拡大+

医療ボランティアによる支援活動の報告会＝ひょうごボランティアプラザ

(金井恒幸)

【特集】東日本大震災

東日本大震災の被災地で医療ボランティアとして活動した国際の3人が9日、神戸市中央区東川崎町1のひょうごボランティア感染症が多く、入院させる病院が近くにない」などと厳しい状況でもあった。

医療通訳研究会（同区）の主催。3人は仙台市や岩手県釜石市月12日から派遣された淡路市の鈴記好博医師は「医師の顔を見直後の取り組みを説明。さらに26日からの派遣では、集団生活痢など感染症の対応が多かったとし、「入院させる病院が近くに

神戸市兵庫区の早瀬麻子助産師は、避難所などで子どもの遊び、不安になりがちな妊婦の相談に応じようと、電子メールでの桂木聡子薬剤師はボランティア希望者に対し、「現地で求めら